

ココタウンデイサービスセンター

症 例 概 要 利用者：90歳代 女性 要介護2

利用期間：令和 6年 8月 ～ 令和 8年 4月

経 過：

お元気な頃はジグソーパズルや洋裁、編み物などをされたりと手先が器用でご自身が着てらっしゃるカーディガンも編まれたほどの腕前でした。2024年6月までは地区の老人会や体操のカーブスに通うことができ外に出てはご近所の方と会話するなどの交流もありましたが右膝痛、腰痛の悪化により寝ていることが増え自宅から出る機会も減り介護保険申請へととなりました。日中横になってる事が多く、他者交流も減り、体力的精神的の低下を娘さんが心配され2024年8月よりデイサービス開始となりました。

内 容

デイサービス開始前まではジグソーパズルや洋裁、編み物が得意で地区の老人会や体操のフィットネスに通うなど他者交流や活動において積極的に取り組まれておりました。しかし、ここ数年で膝痛、腰痛の悪化により一日の中で動くことが減り横になってる事が多くなってきてしまいました。軽度の物忘れも始まり、ご家族は体力や認知機能の低下を心配しADLの維持と良好な他者交流が図れるよう週2回デイサービスの利用開始となりました。利用当初からお話好きの性格から近くの方と談笑され、レクリエーションにも積極的に参加され楽しめる様子が見られました。しかし、徐々にご自宅やデイサービスで排便の失敗や排泄後の始末ができなくなることが多くなり、とても落ち込まれ精神的にも不安定な日が続き娘さんとは口論が増え、暴言や杖などで叩こうとするなど暴力的な行為が増えてしまいました。

デイサービスで排便の失敗が続いた際はトイレから出れなくなるほど落ち込まれ職員の胸で号泣される事がありました。ネガティブな発言が多くなり亡くなられたご主人のお迎えが早く来ないかなど仰られたり、迷惑をかけて申し訳ない、ごめんなさいが口癖のようになってしまいました。職員にて、出来る事や楽しい事が増えたら笑顔も増え気持ちも前向きになるのではないのかと考えレクリエーションや工作では職員や仲間達と楽しい時間を共有しました。傾聴時間を多く作り、気持ちを理解してあげる事でご本人の気持ちのモヤモヤが徐々に解消され気持ちをリセットして帰宅できるようになりました。今ではごめんなさいではなく、「ありがとう」という言葉が沢山出るようになり表情も明るく変わってきました。今後も安心して笑顔で輝ける日々を過ごして頂けるよう職員一丸となって努めて参ります。